

## 平成21年3月期 第2四半期決算短信

平成20年11月10日

上場会社名 東邦化学工業株式会社  
 コード番号 4409 URL <http://www.toho-chem.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中崎 龍雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 井上 豊  
 四半期報告書提出予定日 平成20年11月14日

上場取引所 東

TEL 03-5550-3735

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年3月期第2四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第2四半期	18,226	—	608	—	449	—	426	—
20年3月期第2四半期	17,450	8.7	861	79.7	749	84.6	426	64.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年3月期第2四半期	19.99	—
20年3月期第2四半期	19.98	—

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第2四半期	37,276	—	7,538	—	20.0	—	350.23	
20年3月期	37,278	—	7,608	—	20.2	—	353.05	

(参考) 自己資本 21年3月期第2四半期 7,473百万円 20年3月期 7,533百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	0.00	—	6.00	6.00
21年3月期	—	0.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,500	2.2	650	△55.0	350	△70.3	300	△55.7	14.06

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

## 4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
 新規 — 社(社名) ) 除外 — 社(社名) )
- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有  
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの  
 ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 無  
 (注) 詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。
- (4) 発行済株式数(普通株式)  
 ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第2四半期 21,350,000株 20年3月期 21,350,000株  
 ② 期末自己株式数 21年3月期第2四半期 11,600株 20年3月期 10,800株  
 ③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第2四半期 21,338,686株 20年3月期第2四半期 21,339,419株

## ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、3ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間は、米国を震源地とする世界規模での金融市場の混乱が世界経済の景気減速と株安・円高を招き、わが国経済の先行きも景気後退期入りが必要の状況となってまいりました。

また、企業経営は、景気減速感が一段と強まる中、依然として原材料高が収益の大きな重石となり、厳しい舵取りを迫られました。

このような経営環境下、当社グループとしては、原材料高に対する製品価格は是正の遅れによる収益悪化の改善を最優先課題として取り組むと共に、全社的なコスト削減に努めましたが、これを十分カバーするには至らず大幅な減益を余儀なくされました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は182億26百万円（前年同期比4.4%増）、営業利益は6億8百万円（前年同期比29.3%減）、経常利益は4億49百万円（前年同期比40.0%減）となりました。

また、特別利益に投資有価証券売却益3億31百万円を計上、特別損失にたな卸資産評価損81百万円を計上した結果、四半期純利益は4億26百万円（前年同期比0.1%増）となりました。

#### 部門別営業の状況

##### （界面活性剤）

トイレタリー用界面活性剤は、業務用一般洗浄剤が堅調だったもののシャンプー・リンス用基材の需要減少で低調に推移しました。プラスチック用界面活性剤は帯電防止剤が持ち直し増収に転じました。農薬助剤は海外向けを中心に引き続き堅調でした。土木建築用薬剤および紙パルプ用界面活性剤は需要の落ち込みから低調に推移しました。

その結果、部門全体の売上高は前年同期比5.4%増収の92億5百万円となりました。

##### （樹脂）

合成樹脂は断熱用ウレタン樹脂の販売数量の増加により、また石油樹脂は製品価格の是正により、それぞれ増収となりました。アクリレートは引き続き電子・情報産業用向けを中心に伸長しました。一方、樹脂エマルションは鋼板用表面処理剤を除き全般的に低調に推移しました。

その結果、部門全体の売上高は前年同期比6.4%増収の25億50百万円となりました。

##### （化成品）

石油添加剤は油水分離剤用や潤滑油用が堅調で増収となりました。金属加工油剤も水溶性切削剤を中心に増収を確保しました。しかし、合成ゴム・ABS樹脂用ロジン系乳化重合剤は海外向け販売の需要落ち込みで大幅な減収となりました。

その結果、部門全体の売上高は前年同期比1.5%減収の26億73百万円となりました。

##### （特殊溶剤）

IT関連事業向け溶剤は、需要は低調に推移しましたが、価格是正により増収を確保しました。一方、電子・情報産業用の微細加工用樹脂はユーザーサイドの生産調整の影響を受け、大幅な減収となりました。

その結果、部門全体の売上高は前年同期比5.3%増収の37億34百万円となりました。

（注）当第2四半期累計期間と前年同四半期累計期間では適用される会計基準が異なっておりますが、参考情報として“前年同期比増減率”を記載しております。（3ページ 4. その他 （3）参照）

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末の総資産は372億76百万円と前期末比2百万円の減少となりました。その内訳は、流動資産が3億15百万円の増加、固定資産が3億18百万円の減少です。

流動資産の増減の主な要因は、現金及び預金が8億37百万円の増加、受取手形及び売掛金が3億81百万円の増加、たな卸資産が1億33百万円の増加、その他が10億35百万円の減少です。固定資産の増減の主な要因は、有形固定資産が2億43百万円の増加、投資その他の資産が5億60百万円の減少です。

負債合計は297億38百万円と前期末比67百万円の増加となりました。増減の主な要因は、支払手形及び買掛金が6億54百万円の増加、流動負債のその他（主に設備支払に係わる未払金）が11億39百万円の減少、長期借入金（鹿島新工場建設資金の借入増を主因に）6億27百万円の増加です。

純資産は、75億38百万円と前期末比69百万円の減少となりました。その主な内訳は利益剰余金が2億98百万円の増加、その他有価証券評価差額金が3億62百万円の減少です。

利益剰余金の増減の主な要因は、四半期純利益による増加が4億26百万円、配当金の支払いによる減少が1億28百万円です。

その結果、自己資本比率は20.0%、1株当たり純資産額は350円23銭となりました。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期までの実績は、期初の予想を上回りましたが、下期につきましては、景気が急減速する中、ユーザーサイドでの生産調整の強化、ならびに円高による需要の落ち込みが懸念される一方、第3四半期までは更なる原材料価格の上昇の影響が残ることから業績の低下を余儀なくされる見通しであります。このため、平成20年5月16日に公表した平成21年3月期の連結業績予想を修正しております。

## 4. その他

### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ簿価切下げを行う方法によりております。

② 法人税等の納税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によりております。なお、法人税等調整額は法人税等に一括して表示しております。

### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### ② 「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用

「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号）を第1四半期連結会計期間から適用し、評価基準については、原価法から原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）に変更しております。

これにより、当第2四半期累計期間の売上総利益および営業利益ならびに経常利益が6百万円、税金等調整前四半期純利益が87百万円それぞれ減少しております。

#### ③ 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号）を適用し、連結決算上必要な修正を行っております。なお、この変更による損益への影響は軽微であります。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,542	2,705
受取手形及び売掛金	9,495	9,114
たな卸資産	7,178	7,044
その他	657	1,693
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	20,873	20,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4,796	4,900
機械装置及び運搬具（純額）	3,323	3,457
土地	3,322	3,322
建設仮勘定	1,586	1,112
その他（純額）	432	425
有形固定資産合計	13,461	13,217
無形固定資産	103	104
投資その他の資産	2,838	3,398
固定資産合計	16,402	16,721
資産合計	37,276	37,278

(単位：百万円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成20年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,696	8,041
短期借入金	5,870	5,600
未払法人税等	248	143
賞与引当金	286	362
その他	3,106	4,246
流動負債合計	18,209	18,394
固定負債		
社債	2,620	2,920
長期借入金	5,532	4,905
退職給付引当金	3,248	3,305
役員退職慰労引当金	127	144
その他	0	0
固定負債合計	11,529	11,275
負債合計	29,738	29,670
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,755	1,755
資本剰余金	896	896
利益剰余金	4,636	4,338
自己株式	△2	△2
株主資本合計	7,285	6,986
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	132	495
為替換算調整勘定	55	51
評価・換算差額等合計	188	546
少数株主持分	65	74
純資産合計	7,538	7,608
負債純資産合計	37,276	37,278

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日)
売上高	18,226
売上原価	15,520
売上総利益	2,706
販売費及び一般管理費	2,097
営業利益	608
営業外収益	
受取利息	3
受取配当金	24
物品売却益	11
その他	12
営業外収益合計	52
営業外費用	
支払利息	141
手形売却損	21
その他	48
営業外費用合計	211
経常利益	449
特別利益	
投資有価証券売却益	331
固定資産売却益	0
特別利益合計	332
特別損失	
たな卸資産評価損	81
固定資産廃棄損	6
特別損失合計	88
税金等調整前四半期純利益	693
法人税等	268
少数株主損失(△)	△2
四半期純利益	426

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）および「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

（3）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（4）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表

(要約) 中間連結損益計算書

前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)

(単位：百万円)

科目	前中間連結会計期間 (自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日)
	金額
I 売上高	17,450
II 売上原価	14,447
売上総利益	3,002
III 販売費及び一般管理費	2,141
営業利益	861
IV 営業外収益	81
受取利息	5
受取配当金	21
その他	55
V 営業外費用	193
支払利息	110
手形売却損	20
その他	62
経常利益	749
VI 特別損失	28
固定資産廃棄損	28
税金等調整前中間純利益	721
税金費用	290
少数株主利益	4
中間純利益	426

## 6. 販売実績の状況

当第2四半期連結累計期間における販売実績を部門別に示すと、下記のとおりです。

部門	金額(百万円)	前年同期比(%)
界面活性剤	9,205	5.4
樹脂	2,550	6.4
化成品	2,673	1.5
特殊溶剤	3,734	5.3
その他	62	4.6
合計	18,226	4.4

(注) 1 金額には、消費税等は含まれておりません。

2 主要な相手先別の販売実績は、総販売実績に対する割合が10%未満のため、記載を省略しております。